

主な記事	
経済の進展と繊維産業……………	1
50周年記念と大学の理想達成	2
絹談義……………	3
千曲会の皆様へ(イラン便り)	4
基礎科学のこと……………	5
会員の近況……………	5

千曲會報

昭和34年5月1日発行
 長野県上田市常入
 信州大学繊維学部内
 編集兼発行人 小山長雄
 信州大学繊維学部内
 発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

経済の進展と繊維産業

信大繊維学部教授 小 泉 所

経済生活は云うまでもなく私達の衣食住乃至は文化生活に必要な物資を獲得し、利用することを内容としている社会生活の側面であるから、どのような未開人も、また文明人も経済生活を営むために必要な物資の生産には従事せざるを得ないわけである。ところが未開人は「手から口への生産」乃至はごく簡単な道具等を用いて、彼等の消費欲望を直接満たしてくれる食料乃至は衣料等の生産に従事しているのが普通である。このことは所謂資本主義の後進国とよばれる国々にも程度の差こそあれ、そのままあてはまるのであって、後進国における主要産業は農林業を除けば、いずれも簡単な道具乃至は機械などで出来る食料品工業乃至は繊維工業なのである。

ところが「手から口への生産」乃至は簡単な道具、機械などで行われる生産は、労働を有効に働かせるための補助手段を欠き、或いは不充分であるので、より良い生活物資を豊富に与えてはくれない。このために文明国においては所謂「急がば廻れ」式に労働の補助手段としての機械装置などの生産により多くの労働や資源等を振り向けるようになった。ところがこのような機械、装置などが出来ると、更に之等の機械、装置を生産するための機械、装置を必要とするから、機械、装置の生産は連鎖的にそれからそれへと進んで行くことになる。このために文明国においては、私達の生活物資の生産とは、およそ縁のないような物資の生産に多大の労力、資源が用いられているが、然しながら之等の生産とて、結局は私等の生活につながりをもって来るのである。即ち文明国の生産は益々迂廻的となり、生産が迂廻的となることによって生活物資はより豊富に出廻ることとなるのである。

そこで私等の直接使用する生活物資を消費財（家庭向物資）、労働の補助手段乃至は原材料となる物資を資本財（工場乃至農場向物資）という言葉で呼ぶならば、文明が進む程資本財の生産割合は消費財の生産割合より多くなるのが普通である。（工業用原料となる農産物は一般に後進国より供給される。）従って一国の産業構造に於て資本財の生産に従事する資本財産業が、消費財の生産に従事する消費財産業より多くなる現象を、経済の高度化乃至は進展と云う言葉で呼んでいるのである。

このように高度化された産業国に於ては、産業の類別構成

に於て資本財産業の占める比率は、消費財産業の占める比率を遙かに凌駕している。然しながらこのような産業の高度化は、云う迄もなく一朝にしてなったものではない。従って現在の高度の資本主義国に於ても、その当初に於ては消費財産業が圧倒的多数を占めていたものであり、また後進国に於ては消費財産業が現に圧倒的多数を占めているのである。

ひらがえって繊維産業をみると、繊維産業は典型的な消費財産業である。試みに最近に於ける国内繊維の需給状況を見ると、全繊維の8割8分は衣料用に向けられ、産業用に向けられる繊維数量は1割2分にすぎないのである。（輸出を除く。）このように繊維産業は消費財産業としての性格をもつことからして、多くの国に於て経済近代化の端緒期に於ては、その国の主要産業を形成したのである（食料品工業が同様の役割をつとめた国もある）。19世紀を通じての英国、20世紀前半の日本の如きはその適例である。このような経済の軌道は現在経済近代化の端緒期にある後進国にも、例外とはなり得ないのであって、最近に於ける印度、中国などは等しく先進国の歩んだ道を現にたどりつつあるのである。

ところで経済の軌道は上述のように資本財産業への移行を明かに示しているとするならば、繊維産業の如く消費財を作るべく運命付けられた産業は、一国の産業構成の上で全産業に対してもつ比重を減せざるを得なくなるわけである。しかしながらこのことは繊維品の絶対額の減少を決して意味してはいない。繊維品の絶対量は年々増加するであろうが、技術の進歩はあらゆる産業を益々迂回させるが故に、繊維産業は相対的に其の地位を低下せざるを得なくなるのである。例えば我が国に於ては明治末年から大正の初期にかけて、全工業生産物価額のうち染織工業の占める比率は50%内外であったのに、最近に於ては16~17%を占めるにすぎなくなってしまったのである。このような事情が繊維産業全般に所謂斜陽的色彩をおびさせ産業としての魅力を大きく喪失させてしまったのである。

しかしながら繰返して述べるように、経済生活の真の目標は消費物資を豊富に獲得することにある。資本財生産は結局はそのための手段にすぎない。従って資本財産業が如何に人ぎんをきわめようとも、そのために消費財産業が没落することはあり得ない。然しながら斯く云えばとて消費財産業の

内容が不変に留まってよいと云うわけではない。消費財産業の内容は常に変化する。否姿転せざるを得ないのである。というのは消費財は私達の消費といつも直結しているから、私達の趣味嗜好乃至は生活様式の変化は常に消費財産業の内容の変化を強要するからである。而してこのように私達の消費欲望に適應するようにその内容を変化すること、あるいは更に進んで私達の消費生活の合理化に役立つような製品を創出すること、そのことがとりもなおさず繊維産業の進展となるのである。

次に繊維産業が1つの産業としてそれ自らの存在を強く主張し得るためには、その生産の過程に於てより多くの附加価値を創造し得る産業となることである。ここに所謂附加価値とは生産の過程に於て創出された価値をいう。具体的には製品の価額より原材料燃料電力などの使用価額を差引いたもの、いわば生産の過程に於て労働によって創出された価値をいうのである。従って附加価値は原材料に依存する度合の高い産業よりも、技術に依存する度合の強い産業に於て多くを期待することが出来る。例えば精化学工業は粗工業よりも大きな附加価値を生み出し得るのであり、等しく繊維工業のうちに

於ても、その種類によって附加価値は著しく相異しているのである。即ち従業者1人当り年間の附加価値は生糸業137、紡績熱糸業424、織物業214、メリヤス業245、染色整理業377、レーヨン製造業649、合成繊維業1476(単位千円、昭和30年)と原材料よりも技術を要求する度合の強い部門程大きいのである。附加価値が多くなる程、産業の収益は増し従業者の所得は多くなるのみならず、同一価額の原材料よりより多くの価値物を作り出すことになるのであるから、国家的見地からみても大きな利益となるわけである。

従って繊維産業をしてその存在を大きくあらしめるためには、一方に於ては繊維需要を分析して繊維消費の方向を見極め、それに順応した製品を作り出すと共に、進んで私達の消費生活をも指導し、他方に於ては高度の技術を修得してそれを駆使することによって、附加価値をより大ならしめる製品を創出することに努力すべきではないかと思われる。斯くすることによって私達は国内に於ては、繊維産業の存在を大きく主張し得ると共に、他方国際市場に於ては後進国による競争を振り切ることが出来るようになるのではなからうか。

50周年記念事業と大学の理想達成

千曲会顧問 蒲 生 俊 興

1 はしがき

母校創立50周年も愈々明35年に通り、お互に気ぜわしい感にうたれる。50周年記念事業に関しては猪坂直一氏(蚕6回)を委員長とする実行委員会が着々動いているので安心だが、私も最初からこのことの主唱者の一人だから、老婆心までに所感の一端を述べ、この辺で一応踏切って、認識を新たに、一層の御協力を願うことも無駄ではなからうと考えた。

2 母校50周年記念事業案

記念事業の完遂には4000人以上にも及ぶ千曲会員総員の御協力によって凡そ500万円の醸金を仰ぎこれによって

- (1) 50周年祝賀行事費 100万円
- (2) 50周年記念事業費
 - イ) 財団法人信大繊維科学振興会(仮称)の創設 250万円
 - ロ) 千曲会施設の充実 60 //
- (3) 募金及事務所費 90 //
- 合 計 500 //

の予定で進行し、昭和34年度から母校50周年祝賀並びに記念事業協賛会を組織して、上田市、長野県並びに全国の繊維関係業界に呼びかけて広く御援助を仰ぐ建前となっている。

目下野口理事長を初め千曲会理事者諸兄や地方支部役員諸君の涙ぐましい活躍を願っているが、財界不況の影響や、記念事業に対する正しい認識も欠けたりして集金の状態は割合に低調の模様で寂しい感がある。

3 財団法人信大繊維科学振興会(仮称)の目的とその事業

信大繊維学部の前々身たる上田蚕糸専門学校在明治43年秋に創立された当時は正に日露戦役後で、我国の産業や生糸

貿易などが急調を以て進展を示していた頃であり、当時農商務省所管に東京、京都の蚕業講習所はあったが、交部省直轄の蚕糸に関する高等専門学校がなかったのが国最初の企てとして、上田蚕糸専門学校在創立を見たわけであるが、爾来半世紀に亘る長年月蚕糸及び一般繊維科学に関する高等教育機関として、4000人に余る技術者を養成し我国繊維産業の進展に尽した偉績は正に不朽の記念事業に値することは勿論である。従って母校50周年記念事業計画委員会は2ケ年に亘って慎重なる審議を重ねた後、記念事業の計画や運営の上で比較的弾力性にとみしかも最も時宜に適した記念事業として繊維科学振興会(仮称)なる財団法人の設立を企図するに至ったのである。

今や矢継速やに原子力、オートメーション、ミサイル、人工衛星など正に人類史の新しい劃期的な段階に踏入った今日において、大学とその附属研究所の責務の重大なるはいうを俟たない所である。わが国が今後新しい世界史に立って諸外国に立ち遅れないためには大学と社会との強力な結合、大学の研究室と産業経済界との密接な互助関係の確立ほど喫緊なるはないと思う。科学的先進国たる欧米諸国の大学において既に先見的に実施せられてきた大学と産業社会との強力なる結合が今日における米ソの科学的進歩の淵源となっているのは申す迄もないが、従来わが国における大学と社会とは正に宿命的な遊離状態を保って、いわゆる象牙の塔に立てこもってきたのである。

このような観点に立てば、われわれの企画する繊維科学振興会の目的は自ら明確となり、その使命の如何に重大であるかは言を俟たない所である。即ちこの振興会の目的とする所

はわが国の繊維科学の振興と繊維産業の発展に寄与するに在り、この目的を達成するために行われる事業としては

- (1) 母校職員及び千曲会会員の優秀なる学術研究に対する助成とその成果に対する表彰を行うこと
- (2) 繊維産業界と信大繊維学部との協力並びに互助のために、委託研究の斡旋を行うこと

が計画されている。

上記の二大事業中(1)の助成及び表彰事業は研究奨励上最も緊要なるは申すまでもないが、これには自ら莫大なる資金が必要となるのであって、今回本財団が一応の記念事業として発足する資金はこの目的には余りに軽少といわねばならない。従って今後は何等かの方法で資金の増額を目途に行かねばならないが、幸に50周年祝賀協賛と同時に汎く繊維産業界がわが繊維科学振興会設立の趣旨特に(2)委託研究の斡旋事業に御賛同を仰ぎ、何分の御寄与を懇請し漸次本財団の強化を図りうれば幸甚とする所である。

尚幸に別途長野県に於ても強力なる科学振興会が発足し、本県内に行われる重要な発明、研究等を行う者に対する研究

資金の助成を行い、以って本県産業の振興を図ろうとしているから、今後われわれは繊維科学の範囲内に於て県科学振興会と相提携して運営することも望ましい限りというべきではなからうか。

即ち今回われわれの計画する振興会の特長は、むしろ委託研究の斡旋によって大学と地方産業との強力なる結合により前述した科学万能時代に処する大学の使命を完全に達成せしめるにあると思う。

4 千曲会施設の充実

今回の50周年祝賀を機とし、千曲会の活動を敏活ならしめ、且つ会員の便益のために宿泊所や事務所などの充実強化を図ろうというのであって、これも亦母校並に千曲会員のために極めて重要な計画といわねばならない。

5 むすび

以上は愈々目焦の間に逼った母校50周年祝賀並に記念事業の企画について、一般の再認識を深め会員各位の一層の献身的御寄与を冀い本記念事業の完遂により、名誉ある母校の歴史を飾る一翼ともなりうればと念願してやまない次第である(1959年2月19日)。

絹 談 義

信大繊維学部助教授 黒 岩 茂 隆

こんな話がある。それは最近東大のK教授が、学会の代表としてオランダへゆかれたときのことで、各国の代表とともに、教授もその国の貴族にまねかれた。教授は日本の風俗を紹介するという意味で、そのときわざわざ絹の着物をまとい、羽織はかまで列席したそうである。いならば人達は日本の着物をまのあたりみて、非常に珍らしがり、それはそれは大変なさわぎであったということである。なかでも主催者側の貴族方は殊の外のおよろこびで、教授を隣席にまねきよせ、着物の着方や羽織はかまの意義などの説明を求められ、着ている絹の着物に手をふれては、その美しさと手ざわりのよさにただ感嘆するばかりだったという。教授も始めのうちは、自分の行為が意外に大きな反響をよんだことに、驚くとともに得意であったが、話はそれだけにとどまらず、終には教授はすっかり日本の貴族と思いつまされ、ついには皇室の話まで出て、いろいろなことをきかれたのには閉口したという話である。教授はただ絹をきているということだけで、すっかり貴族化してしまったのである。絹繊維は美しく、手にふれた感じも誠によいので、さもありなんと思う。

養蚕業は古くから日本にあったもので、絹は日本人の手で育て上げられた繊維であった。しかしその絹も近頃ではすっかり化学繊維におされ、その影も次第にうすくなってきた。化学繊維も出始めの頃は、絹・羊毛その他の繊維の代用品であったが、最近では、いろいろ優れた性質をもったものが自由につくることが出来るようになり、実用されるにともなって、ようやく代用の域を脱しつつある。「絹は金のようなもので、手にしたいものであるが、日常生活になくはならぬものではない」とは、よく耳にする言葉である。絹は光沢もあり美しく、染色性も優れており触感もよい。それがどうして

こうなったのであろうか。

いまでもある程度いえることであるが、昔他家へ奉公にいくと、一番最初に着せられるのは木綿のいわゆる筒袖の着物であった。そしてどんな寒中でも、朝は誰よりも早くおきて店先をはき清め、店内を清掃するというようなことから始めねばならなかった。それが奉公の始めであった。そして何かにつけ口やかましく注意され、先輩からさんざんおごごを頂戴し、永年の間下づみの生活に耐えしのんで、ようやく一人前になるのである。こうして、「お蔭様で私もようやく『やわらかもの』を着るようになりました」と、人に挨拶することが出来るようになり、やがて暖簾をわけてもらって、一本立が出来るようになるまでには、一通りや二通りの苦勞ではなかった。この『やわらかもの』とは他でもない絹のことであって、始めの筒袖の頃から与えられるのではなかった。またその昔歴代の天皇が治政のために、先ず奨励したのは養蚕業であって、絹は物納やみつぎもの、更にはまた贈賄の対象であったし、神社仏閣の勧進に應えるものに使われたものでもあった。このように絹は日本の生活風俗の中では、始めから高い位置に座していたのである。

いろいろな学問が発達し、科学技術が高度なものになるにつれて、これまでどうしても直接自然の恩恵をうけなければならなかったものが、つぎつぎと人造されるようになっていく。「繊維だけは例外である」というわけにもいかなないであろう。だからいろいろ優れた繊維が合成され、実用されるようになるとともに、絹を始め羊毛・綿などの繊維は、とくに天然繊維とよばれるようにさえなってきた。しかし同じ天然繊維でも、絹に比べれば、綿はまだまだわれわれの肌を直接

(6 ページ 3段へ続く)

SAIKUMA SALON

千曲会の皆様へ

在イラン 湯原理三(蚕36)

千曲会の皆様、新春を迎え益々御元気にして斯業に御邁進の程お慶び申し上げます。

早いものでイランに参りましてすでに1年、またたくまに過ぎてしまいました。その間御無沙汰のみ致し、諸兄に衷心よりお詫びを申し上げる次第です。

出発の際は郷土在住の皆様には盛大な壮行の宴を催し下され、また存京の皆様には空港まで御見送りをいただき、遠隔の地の皆様からは熱意溢れる祝電を辱うし、皆様の友情に深く感謝申し上げます。1958年1月30日午後8時KLM機にて日本の地を離れ、31日午前2時マニラへ到着。真夜中のこととてフィリッピンの土を見ぬままマニラを離陸し、南支那海において壮大な雲上の夜明けを迎え、午前9時バンコックに着陸。午前12時にはラングーンに着きました。機上から見たバコダの景観は実に素晴らしく、かつての激戦に幾多同胞の血を流したこの地に思わず冥福を祈らずにはいられません。エンジン不調のためラングーンで約5時間待ちました。ここに別れを告げて午後12時カラチに到着(カラチ時間pm 8)ホテルに一泊、異国における第一夜を過しました。

翌2月1日イラン航空にて午前8時カラチを離陸。草木一本もないパキスタン、アフガニスタンの荒原を飛び、アフガニスタンのカンダハルに午前11時に着きました。ここは回教国で遠くにモスクの塔が見え、男はターバンを巻いており、中世的な感じでした。何処までも続く荒原にたくましい竜巻の爪跡、悪気流に絶えず動揺する中を夢中でその景観をフィルムに収めました。イラン領に入っても人家はなく、ただ広さのみが印象に

残り、エトランゼの旅情は尽くるを知らない有様。ようやく緑のオアシスが点々と見え、村落を形成しているのが望まれました。イラン第一の高山ダヤバンドが迎えるが如く一きわそびて立ち、空の青さ、雪の白さ灰褐色の砂漠、点々とある緑のオアシスが見事に調和して、かつて経験したことのない美しさを心行くまでたんのうしました。午後4時テヘラン空港に着陸し通関を済ませ、イランの第一夜を迎えた次第です。

イランの養蚕地帯はカスピ海沿岸(ギラン地方、マーゼンダラン地方)が全産額の90%を占め、中央部(ナタンズ、カシヤン地方)、東部ソ連国境辺、ホーラッサン地方、及び西部アーゼルバイジャン地方となっております。カスピ海沿岸は低地帯多湿型養蚕地帯で、その他は乾燥型オアシス養蚕地帯と申せましょう。従って両者の間に飼育法は当然異なるわけで、前者は桑園内に蚕室(ワラぶきの堀立小屋)で飼育、後者は居室にて飼育するため養蚕規模も前者は大きく(50~200g)、後者は小さく(5~20g)ありますが、共通なことは両者とも粗放育、天候まかせ、蚕を見て育てることをしませんから推して知るべきでしょう。そしてイランの養蚕の大きな特徴は小作養蚕であり、これがすべての発展に大きな障害となっております。

一般に収穫量の平均は卵量1gから1kgの産繭が標準で、全土の掃立量は約220万g位です。蚕種製造数量は約200万g、約10%を外国(日本、フランス、ブルガリヤ、ギリシャ)から輸入し、これを主として種繭として供用します。製造方法は一蛾別袋採法で行なわれます。とくに日本蚕種を除いた他の輸入蚕種はすべてバグダッド種系統品種であり、卵に膠着性がなく、また微粒子病の罹病率の高いことからしてやむを得ない訳です。養蚕家から政府が買入れる繭代は1kg 25~30Rls(125~165円)で無選繭のまま買入れます。製糸工場は現在国营ラント工場が200釜で、地方に座繰業者がありますが、その規模は不明です。

桑はフランスから入れたとゆう白桑系の品種が多く、桑分布上この地にあるといわれる“くろみぐわ(Morus Nigra)”は未だに発見出来ず、関先生、押金兄に申し訳なく思っておりますが、更に念を入れて調査したいと思っております。蚕品種は前述の如くバグダッド種で切歩15

~16%内外といった所であり、昔日の感があります。

私が着任する前にすでに6年にわたり、イランの蚕糸業を指導された国連T. A. の柿崎尚氏の御功績は見るべきものがあります。このたび任期が終り御帰国されましたが、氏とは1年御一緒に生活し、養蚕、蚕種製造、鏡検など言葉の不馴れも氏の御援助によって恙なく出来た次第です。

イランは人も知る石油の国で、タクシーの安いのに驚きます。市内何処でも10Rls(50円)均一です。地方都市にはいまだに馬車と58年型の新車が並行して走っている跛行的な面も見られます。

電車はありません。道路は良く整備されており、スピード制限に煩わされる日本に比べやはり大陸的と申せましょう。宗教は回教の二大主流であるシーア派(イラン、アフガニスタン、パキスタンの一部)でイラン国民は必ず回教徒でなければならず又その信仰力は相当に根強いものがあります。例えばシーア派とスンニー派(イラク、トルコ、シリア etc)との争いが今なお行事として残り、シーア派のスンニー派に対する呪詛はいまだに消えずにあります。食生活も宗教の関係から豚肉を食べませんし、南と北では主食の違いもあります。北のカスピ海一帯は米を常食としており、砂漠地帯はパンを主食としております。

羊、牛などの肉は豊富で安価であり、野菜類は生で食べますから、合理的な食生活といえます。

回教といえはすぐ一夫多妻を思い出しますが、インテリ階級には少なく、農村の小地主とか職工などに見られます。私の知っている人に4人の妻君を持っているのがありますが、この風習も少なくなることは間違いありませんし、またそうなるのが時代の要求でもあるわけです。

風俗は昔の回教徒の面影はなく、前王の時に服装令が布かれたため、女性のチャドルは形式的な或いは装飾的な意味で残っておりますが、男は殆んど背広です。ホーラッサンの田舎へ行きますと今でもターバンを巻いた男を見受けませんが少なくなっております。

私の住んでいるラント市は人口15~20万人の中都市でカスピ海の要衝です。カスピ海一帯はこの国の宝庫で米、野菜類など多く産出されます。また気候は雨量が多く、温暖で冬期氷点下とゆう日は数

える程しかありません。

暦は太陽暦を用いていますが、正月は3月の20日頃ですし、日曜日に相当するゾメは金曜日になります。又宗教上の休日が多くサラリーマンにとっては天国でしょう。イラン人は一般的に楽天的な国民で、生活を有効にエンジョイしております。

現在カスピ海沿岸の日本人は私1人だけです。日本語を聞くことも話すこともなく生活している訳です。諸兄からのお便りのみが待たれます。また皆様の中で海外旅行されるかたがありましたら是非イランへお立寄り下さい。鶴首してお待ち申し上げます。

以上御無沙汰のおわびかたがお知らせまで。向寒のみぎり皆様にはくれぐれも御自愛の程切にお祈り申し上げます。

RIZO YUHARA
C/O EDAR NOGHAN, RESHT,
IRAN.

基礎科学のこと

X・Y・Z・生

新制大学では基礎科学としての一般教育が2年、専門教育が2年というのが大方の原則になっているようである。

これはあくまでも原則であって母校のような特殊な大学にあっては必ずしもこの限りではない。といっても母校の場合は高度の専門技術を必要とするから基礎科学(特に自然科学)が2年間では足りないというのではなく、専門教育が2年間では足りないというのである。

ここに色々な議論が生まれれば生れるというものだ。しかし基礎科学を必要としない応用科学というものが仮りにあったとしてもそれは少なくともお金と時間のかかる大学の講義の対象にはなり得ないものではなからうか。

大学を卒業して工場へ行く、先ず第一に言われる御小言は昔も今も異句同音「貴様は一体学校で何を習ってきたのだ」と。数学や語学をサボってきたのかというのではなく紡織とか繰糸とかの技術的なことは何も知らないではないか、

というのであるからたまらない。しかしそれも一年を経て新参者が入る頃には一応も二応も先輩面ができるようになるのだからよくしたものだ。何も繊維の学校を出て来なくて機械や化学をやった来た人でもその点は同じである。

ここに繊維技術の前近代の要素が含まれている所以があるわけである。

成る程如何に高級な織物でも小さな時からデッチ奉公した人であれば立派に設計もし織上げることもできる。大学などは無用の長物だという逆説も成り立つわけだ。

小さな木造船くらいなら経験と勘丈で船大工でも造ることができるだろう。しかし流体力学の知識も何もない人に10万トン級のマンモス・タンカーが設計できるだろうか? なる程埋3万円位の分譲住宅なら街の棟梁で十分であるが、こと摩天楼となったらどうだろう。構造力学の知識なくして東京タワーが出来たのだろうか。こう考えてくる時わが繊維学部はどうあるべきかという疑問にぶつかるのである。わが母校は今や開校以来の最大の試練に直面しているのである。専門学校時代の単なる技術教育に重点を置くか、基礎科学に重点を置くか、大きな課題ではあろう。しかしここではっきりしておきたい事は基礎科学を必要としない専門技術教育なら大学は無用だということである。

たしかに日本は世界有数の繊維王国である。おそらく低賃金の故であろう。また毎月発表される数多い斯学の研究論文の中には世界的水準のものが少なくない。しかし日本の繊維工業では合成繊維から染色加工にはデザイン縫製まで殆ど外国の特許、アイデアの恩恵を蒙っている。何故独自の研究によって外貨を節約しようとならないのだろうか。

かくてわれわれ学卒は外国特許の仕様書を読み、導入し、うまく運用できればよいのであろう。たしかに猿マネには基礎科学を必要としないわけだ。

こんなことでは印度や中共に追い抜かれてしまう筈だ。頭脳の輸出以外には立つ瀬がないといわれる資源に乏しい日本の将来のためになげかわしいことだ。

会員の近況

豊橋に集いて

東海支会東三河部会

豊橋地方も信州なみに寒かった1月17日(土)、豊橋駅に近い茂乃屋旅館で、東海支会東三河部会が開催された。千曲会本部から、遠路わざわざ理事の山口教授が御臨席下され、更に東海支会長香掛久雄氏も御参加されて、集まった会員16名で、盛大に開催された。時は午後4時、東海道線、飯田線、名鉄線をはしる列車が夕日をまともに受けて美しい。本日集合した会員各位は大久保福三郎氏(糸6)上林多兵衛氏(蚕7)鈴木泰一氏(蚕13)平野庄一氏(紡16)小林竜太氏(紡17)松田得治氏(蚕28)金子新一郎氏(糸17)鈴木竹男氏(紡26)内藤康三氏(蚕25)原田弘隆氏(糸36)牧田寿雄氏(農1)松田清氏(農2)青木茂実氏(学紡4)加藤郁夫氏、原茂(蚕12)である。すでに還暦をすぎた者から40年の巾をもった連中で、出席率は約50%、かつてない盛況であった。この旅館は、内藤君の姉さんの経営であって、同君のお骨折りによったもので、すこし狭い感じがしたが、会は極めてなごやかな雰囲気の中に進められた。先ず小生の開催のことばにはじまり、香掛支会長が支会の近況と運営について相変わらずのユーモア混りの雄弁と熱誠あふる言葉で述べられた。次に山口教授が本部の近況と母校59周年記念行事について、詳細に亘り御説明があった。山口先生は、小生の1年先輩であり10余年振りに再会したが、髪は黒々として歯切れもよくその元氣と若さに驚嘆させられた次第である。千曲会費の納入程度は、当支部も面目ない次第であって、今後は香掛支会長の熱意と会員の協力とによって、次第に向上することと思われる。尚50周年記念行事については、その事業内容を明確にして、蚕糸業、繊維業にその発展と躍進をもたらすように、真に意義深いものであってほしいとの要望があった。尚その事業費の寄附金の募集については、会員各位も同意して、目標額の達成を期して、その方法が論議されて、結局小ブロックごとに世話

人を選び、その人の骨折りによって、数回に分納集金して、目標達成に努力していこうと決定した。山口先生も吾々の誠意ある態度に御満足されたようであった。会議終了後、直ちに懇親会にうつり、山口先生杏樹支会長を中心に、豊橋の銘酒に盃をかわし、老いも若きも過ぎし上田の学生生活を回顧して、時のたつのも忘れて四方やまの語に花が咲き、針塚校長をはじめ、井上、佐藤、原田、遠藤、石倉、和田、金子、奥各先生が話題になり、果ては寄宿舎やら、玉突き娘のことまで約3時間積る追憶談に寒さも吹きとばす程であった。

話もつきず、名残りもつきないが、そろそろ終電車の時刻もせまり、一先ず懇親の席を打切り、一同思い出のよせ書に筆をとり、山口先生のカメラの前に生徒のように行儀正しく並び、撮影をやり最後に大久保先輩の発声で千曲会の万才三唱、午後9時半 意義ある総会を終了した。

昭和34年は、皇太子様御成婚の目出度い年、母校も亦50周年を迎えようとする年なれど世界も日本も益々多事多難を加えようとする年、千曲会も今こそ一致協力、斜陽産業たる蚕糸業界に一段と精進しなければならぬ秋と思う。以上概略東海支会東三河部会総会の模様を述べて欄筆する。(記原 茂蚕13卒)

が一堂に集まって心から語り合い、腹をかかえて笑うことのできる1日なのである。

今年は京都から平坂夫妻の欠席との便りありちょっと淋しかったが、八木、小山両先生はじめ、群馬の小池渥、大町の福島融、茨城の金井節博、花嫁修業中の竹内千枝子、九州から蒲生卓磨、地元の小松が尻の重い亭主をひっぱってきて、宴は総勢9人、暮れ易い冬の夜のひとときを楽しく過ごすことができた。

会場は例年の通り上田のこはまや支店で、やきとりに始まって、トリ鍋で終る順序は変わりなく1年間の時の流れを忘れる程であった。

浅間温泉の御殿の湯の若主人である降旗剛寛氏は年末年始の書き入れ時の忙しきで、博物館勤務の小林啓次氏は歯痛、学生の滝沢達夫、川手正秀両氏は都合悪く出席出来なかったが、末広がりに広がって全国に散在する若い弟子達に囲まれて両先生も楽しそうに過ごしていただくことができ、この会をいつまでも続けて行かれるよう。3日は遠友会予定日に開けておくことにした。

最後に27日から冬山に入る福島さんの無事を祈り、会員の健康と発展を願ってお別れした。

生糸景気の方も好況の波にのりいくら糸を生産しても需要に追いつけない状態で、時間延長と能率増進に頑張っております。私も今年は契約の3年が過ぎますので帰日することになる訳ですが、当地で新しい繰糸機の設計が昨年計画され、いろいろと仕事が山積しておりますので帰れそうにもありません。別に不満はないのですが生活感情や、娯楽面で時々郷愁を感じさせられます。しかしそれも馴れるだろうと思つて張切ることにしております。ブラジルは今非常な不景気に見舞われインフレが増進しております。私等が来た頃の物価は今の2分の1位でした。オナール(クリスマス)に大統領から最低賃金の1月1日からの実施が指令され、現行の1.6倍の最低賃金となりました。資本家側は反対しておりますがこれで益々インフレに拍車をかけることとなります。然し製糸の女工さんもこれで相当の高賃金が得られる訳でもあります。

今の所寝る時間だけの生活で仲々お便りすることも出来ず申訳御座いませんが、いずれいろいろと御報告申し上げとう御座います。林先生から御依頼のブラジル蚕糸業の概況は先頃データが纏まりましたので次便にてお知らせ申し上げます所存であります。(荻原記)



(3ページ網談義続き)

おおってくるものであり、日常生活にはいまなおなくてはならないものである。それは綿は農生活において始めからわれわれの肌にとびたりした、庶民的な味をもっていたからこそである。絹は美しく、肌ざわりもよい繊維でありながら、綿に先んじて金にたとえられるような存在になり、その影もうすくなって来たのは、果して高度の科学技術の発達だけに、そして化学繊維の出現だけに原因があるのだろうか。私は、絹はそれが美しく触感もよい繊維であるが故に思うのは、化学繊維にはおよびもつかない優れた性質があるとか、或は化学繊維に駆逐されつつあるとか、ということをする前に、先ずもって、衣生活における高価な、そして貴族的な座から、庶民の座に天下らなければならないということを痛感するのである。

在ブラジル

谷内利男氏(糸学1)からの通信

諸先生はじめ皆様、愈々御清祥にて良き新年をお迎えになられましたことと拝察致します。私もお蔭様で無事異国で3度目の正月を迎えることが出来ました。仕事の方も機械もどうにか順調で、一方

エントモ会便り

1月3日、好例の遠友会新年会が開かれた。

生物学教室出身者にとって忘れることの出来ないこの日は、全国に散った人々

信州大学繊維学部第7回卒業生

養蚕学科

梶原 二男
加賀美敬信
北村 彰伴
古平 善藏
小林 栄
小堀 四郎
佐々木喜久
高 桑 健
谷川 良裕
玉井 真固
塚田 常夫
土屋 正三
土屋 秀夫
中島 忠三
中村 正敏
中山 剛
中山千佐登
増田 禎三
宮坂 憲吾
安田 勝彦
山本 忠彦
横沢 三夫
吉橋 俊夫

専攻科

清水 忠治
潤賀 康成
小川善之助
小 幡 旭
加藤 秀和
金沢 重夫
北島和加子

製糸学科

北原 英臣
黒沢 一養
桑 原 晃
小松 秀丸
近藤 貞彦
島田製襪幸
滝沢 一雄
中島真太郎
西村 哲夫
春田 正美
平林 正実
藤沢 通夫
堀 内 徹
峯村 勲弘
富 崎 正
柳沢 重幸
和田 康一

専攻科

関島 稔
伊勢 隆

紡織学科

上野 俊二
太田 重夫
大東 隆夫
小川 善男

専攻科(矢木研究室)
竹田研究室
岐阜県武儀養蚕指導所(美濃市美濃町)
芝浦化成KK(岡谷市)
昭栄製糸厚木出張所(神奈川県厚木市厚木)
農林省蚕糸局蚕業課(東京都千代田区霞が関)
長野トヨタ自動車KK(長野市)
上伊那郡上久堅村2439
専攻科(武田研究室)
宮入菌洞研究所(長野県埴科郡戸倉町)
専攻科(松尾研究室)
東筑摩郡洗馬村2235
三友印刷KK(東京都文京区春木町3の24)
専攻科(山口研究室)
富平工業KK(東京都文京区森川町131)
岐阜県恵那郡明知町吉田中学校
愛知県蚕業試験場豊川支場(豊川市豊川町)
田口研究室
済美女子高等学校(岐阜市正法寺町)
小泉研究室
農林省蚕糸試験場前橋支場(前橋市)
熊本県蚕業試験場(熊本市水前寺本町)
長野県養蚕上小支部(上田市松尾町)
岐阜県郡上蚕業指導所(郡上郡八幡町)
亀山製糸埼玉出張所(埼玉県東松山市下野木)

信州大学繊維学部八木研究室
上田市役所農務課(上田市新参町)
田口研究室
花映繊維工業KK(山梨県大月市上花咲)

自 営(上田市鍛冶町)
笠原製糸須賀川工場(須賀川市上入壘)
吉田館製糸所(岡谷市)
笠原製糸大井工場(山梨県巨摩郡甲西町)
増島製針KK(小県郡塩田町)
九十九化学所(岡谷市)
会達製糸KK(福島県二本松市本町)
萩原研究室
市田産業KK
山五産業KK(山形県上市市裏町)
城南製作所(上田市)
南信パルプKK(辰野町)
東特電機KK(丸子町長瀬)

吉田館製糸所(岡谷市)
農林省横浜生糸検査所
信学会ホームスクール(長野市)

農林省蚕糸試験場(東京都杉並区高円寺)

郡是製糸KK

専攻科

山口毛織KK(豊橋市中野町)

岡本メリヤスKK(奈良県広陵町)
犬山整毛KK(名古屋市中区島田町)
帝国人絹KK
旭化成工業KK(延岡市)
東洋高圧KK
作新高校(栃木県)
東洋レーヨンKK(大津市)
東北毛織KK(東京都葛飾区金町)
五藤毛織KK(一宮市四ツ峰町四)
柳沢精機KK
柳沢精機KK(植科郡坂城町)
一村産業KK(金沢市西町3の9)
呉羽紡正川工場(富山県越中大門)
大日本紡績KK
吉田工業KK(富山県黒部市牧野)
敷島紡績KK
専攻科
東洋繊維工業KK
山田紡績KK(愛知県半田市乙川吉野町)
犬山整毛KK(名古屋市中区島田町3の4)
上田市馬場町4339
農林省蚕糸試験場(東京都杉並区高円寺)
共栄毛織KK(津島市外佐織町大野山)

専攻科

清水 忠治

繊維化学科

潤賀 康成

ケミダイズリミテット(東京都中央区京橋2ノ2)
大平研究室(信州大学繊維学部)
大同染工KK(京都市南区吉祥院落合町31)
林紡績KK(一宮市八幡通6ノ1)
東洋レーヨンKK(滋賀県大津市石山)
大阪府立繊維工業試験場(大阪府泉大津市旭町)

ライオン油脂KK(東京都江戸川区平井)
高分子化学工業KK(大阪府寝屋川市仁和田)
三菱レーヨンKK(東京都中央区京橋2ノ8)
日本化学KK(東京都千代田区丸ノ内1ノ6)
住江織物KK(大阪府南区安堂寺橋通4ノ55)
京都晒染工KK(京都市南区西九条春町47)
株式会社紅三(東京都江東区深川新大橋2ノ19)
東海羊毛工業KK(名古屋市中区上飯田西1ノ44)
長野県庁
隅田研究室(信州大学繊維学部)
日本合成化学工業KK(大阪府東区土町211)
東洋紡績KK(東京都墨田区吾妻町西2ノ31)
倉敷紡績KK(岡山県倉敷市向市場町倉敷技術研究所)
帝国人造絹糸KK(大阪府西区江戸堀南通1ノ44)
竹本油脂KK(愛知県蒲郡市蒲郡駅前)
竹仁染化KK(滋賀県野洲郡野洲町1190)
横浜税関(横浜市中区海南通1ノ1)

蝶理東京支店

ケミダイズリミテット(東京都中央区京橋2ノ2)
大平研究室(信州大学繊維学部)
大同染工KK(京都市南区吉祥院落合町31)
林紡績KK(一宮市八幡通6ノ1)
東洋レーヨンKK(滋賀県大津市石山)
大阪府立繊維工業試験場(大阪府泉大津市旭町)

ライオン油脂KK(東京都江戸川区平井)
高分子化学工業KK(大阪府寝屋川市仁和田)
三菱レーヨンKK(東京都中央区京橋2ノ8)
日本化学KK(東京都千代田区丸ノ内1ノ6)
住江織物KK(大阪府南区安堂寺橋通4ノ55)
京都晒染工KK(京都市南区西九条春町47)
株式会社紅三(東京都江東区深川新大橋2ノ19)
東海羊毛工業KK(名古屋市中区上飯田西1ノ44)
長野県庁
隅田研究室(信州大学繊維学部)
日本合成化学工業KK(大阪府東区土町211)
東洋紡績KK(東京都墨田区吾妻町西2ノ31)
倉敷紡績KK(岡山県倉敷市向市場町倉敷技術研究所)
帝国人造絹糸KK(大阪府西区江戸堀南通1ノ44)
竹本油脂KK(愛知県蒲郡市蒲郡駅前)
竹仁染化KK(滋賀県野洲郡野洲町1190)
横浜税関(横浜市中区海南通1ノ1)

蝶理東京支店

50周年記念事業費申込

(4月7日現在)

- 1 愛知支会
 - 1,000円 武井 安夫(学蚕6)
 - 1,000円 倉島 秀雄(学蚕4)
 - 1,000円 池田 和芳(学蚕4)
 - 1,000円 齊藤 幸雄(学蚕5)
 - 1,000円 片岡 孝命(学蚕6)
 - 1,000円 小松 昭威(学蚕5)
 - 1,500円 北沢 正己(糸 38)
 - 4,500円 稲葉 正一(蚕 21)
 - 1,000円 小林 正治(学蚕3)
 - 2 茨城支会
 - 1,000円 神岡 康天(蚕 35)
 - 3 埼玉支会
 - 1,500円 山本 七郎(紡 14)
 - 4 福島支会
 - 500円 柳沢 一郎(蚕 27)
 - 5 三丹支会
 - 2,000円 山本 孝三(旧 職)
 - 6 神奈川支会
 - 1,000円 田中 重臣(学糸2)
 - 3,000円 中 木 武(糸 17)
 - 3,000円 細 井 満(紡 10)
 - 7 宮城支会
 - 500円 太田 達郎(蚕 37)
 - 8 熊本支会
 - 2,500円 中岡 保男(織農1)
 - 9 上小支会
 - 1,000円 伊藤 俊文(学糸5)
 - 5,000円 堀 久三郎(糸 14)
 - 1,000円 小林 恵吾(学蚕別2)
 - 3,500円 箱山 住夫(蚕 26)
 - 3,000円 二宮新二郎(紡 22)
 - 5,000円 佐 藤 一(紡 2)
 - 1,500円 青島 二郎(学糸3)
 - 6,000円 香山 清和(紡 3)
 - 2,000円 沓掛 祥平(紡 15)
 - 1,000円 金子 梓朗(紡 1)
 - 5,000円 古越 光明(蚕 14)
 - 1,000円 赤尾 善雄(学糸別4)
 - 2,000円 唐沢 昭夫(糸 35)
 - 3,000円 半田 義雄(蚕 22)
 - 2,000円 山浦 俊美(蚕 33)
 - 2,000円 西沢 芳智(織農2)
 - 8,000円 白井 要範(糸 12)
- 小 計 80,000
累 計 1,176,950円

蒲生俊興先生退官記念品代

自3月6日一 至4月5日

- 金 1,000円 鶴田 定平 蚕 1
- 戸塚 一 // 24
- 金 500円 樋村 忠義 // 14
- 白井 要範 糸 12
- 内田訓之亮 蚕 13
- 大井 武俊 学蚕 1
- 松永 省治 糸 37
- 倉濁 恒夫 蚕 21
- 小野 修二 蚕 7
- 宮川千三郎 // 20

倉沢美德先生退官記念品代

自3月6日一 至4月5日

- 金 1,000円 鶴田 定平 蚕 1
- 戸塚 一 // 24
- 金 500円 樋村 忠義 蚕 14
- 内田訓之亮 // 13
- 白井 要範 糸 12
- 倉沢 恒夫 蚕 21
- 小野 修二 蚕 7
- 宮川千三郎 // 20

本 会 日 誌

- 3月17日
母校50周年記念千曲会員名簿編輯第1
回委員会開催
- 3月22日
山梨支会創立総会に町田理事出席

編 集 後 記

3月から5月にかけては各種学会の発表会や総会が一年中で最も輻輳している時です。そんな事情で香山氏の御忠言を読んでいるヒマがなく申し訳なく思っています。編集長の白井先生が東京の蚕糸学会からカゼをもって来られ療養中のため本号はお頭なしの編集です。編集が杜撰になったのはそのせいでもありませんが、五斗米に甘んじ、新学期

母校だより

- 3月23, 24, 25の3日間学部並びに蚕糸別科の入学試験が行われた。志願者の出身県は北は北海道から南は鹿児島にいたる28都道府県にわたり、県外者は60%に及んでいる。これを現役、浪人別にみると浪人は61%に達しており、入試が如何に困難であるかがわかる。
- 入学宣誓式は4月13日の予定である。
- なお別科製糸課程女子10名を再募集することになり、4月20日願書締切り、25日試験で、30日入学式の予定である。

お 願 い

- 会費の納入が悪く会報の発行も危ぶまれる状態です。未納の方は至急御納入下さい。
- 蒲生、倉沢両先生の退官記念品代の取扱いは三月末で一応しめ切りましたが、未納の方は至急御納入下さい。
- 50周年記念事業費申込も大至急御願ひ致します。

を控えての雑務と研究に忙殺中の片手間の編集がどんなものか御推察願えるものとおもいます。

今年の卒業生を紹介致しました。母校の現況を御判断願えるとおもいます。(篠原記)

- 編集理事 田口 亮平・白井 美明
- 編集顧問 小山 長雄
- 編集部員 一之瀬匡興・三石 賢
矢彦沢清允・降旗 剛寛
篠原 昭